

連載

もつと



知りたい 地域医療

第三十七回

町立下川病院 院長 花房 徹 兒



昨年4月から今年3月までに初めての症状で町立下川病院の外科にかかられた人（初診）230人の疾患を振り返ってみました。

半数の人が変形性関節症、靭帯炎、腱鞘炎等の病気や、転落、転倒、打撲、骨折等の怪我でした。頭頸部は21人。胸背部は12人。肩は5人でした。腰部は26人で、上腕と肘は8人。手の疾患は20人。膝は13人。足も怪我が多く17人でした。交通事故は10人で頸椎捻挫、腰椎捻挫、胸部打撲が症状でした。

皮膚の発疹皮膚炎が多く31人で原因はさまざまです。犬猫に噛まれた人は各

1人。ダニ咬傷は8人。蜂刺症は5人。他の虫刺されは6人で、リンパ管炎（腕や脚に赤い筋を引き痛む）は5人でした。切創や割創で縫合処置が必要だった方は5人で、釣り針、とげ他の除去処置は8人でした。熱傷4人、褥瘡は3人、爪溝炎は3趾3指6人、白癬菌症は5人が受診されました。痛風は5人、発作で来院です。内痔核の出血の方も3人。そのほか包茎の嵌頓1人、鼻出血2人、眼内異物2人が来院されました。

多岐にわたる疾患の人が受診されましたが、冬季屋外での転倒骨折が一人もな

いのは意外です。特徴的と思われるダニ咬傷と蜂刺創について少し触れます。

ダニ咬傷はダニに咬まれたところが赤く腫れるだけでなく、全身病のライム病、ダニ媒介性脳炎を引き起こすことがありますので、2週間は注意が必要です。遊走性紅斑といいます。咬傷部の発赤がだんだん拡がり、また頭痛発熱筋肉痛尚などの症状が出ます。このような時は必ず受診してください。北海道ではライム病は毎年10人前後、名古屋管内では2018年に1人発症しています。ダニ媒介性脳炎は平成5年に発見

以来現在まで北海道で5人罹患しています。

スズメバチ刺創は日本で年間20人程度の死者が出ています。危険は一度に多数のスズメバチに刺されるときと、2度目に刺された時です。刺されると特異的I g E抗体ができ10年程度は維持され、次に刺された時にこれが反応し、呼吸困難や血圧低下のアナフィラキシーが起こります。緊急治療が必要で、エピペンをすぐに使用するか、一刻も早く病院を受診してください。

■お問い合わせ

町立下川病院

☎・☆4-2039

